

高原の風だより

2021（令和3）年10月 発行 <第21号>

地域の安全・安心を守る消防団

～団員確保が大きな課題～

「観測史上最大の降水量」「100年に一度の大災害」といったようなことを最近は頻繁に聞くようになった。少し雨が長引くと日本のどこかで必ず災害が発生する。いつどこで災害が起きてもおかしくないような状況が続いている。

自然災害は雨だけでなく地震や噴火、火災、冬の雪害など様々だ。そういう中で、住民の安全・安心を守るため昼夜を問わず活躍しているのが消防団である。その消防団が今、多くの課題に直面している。



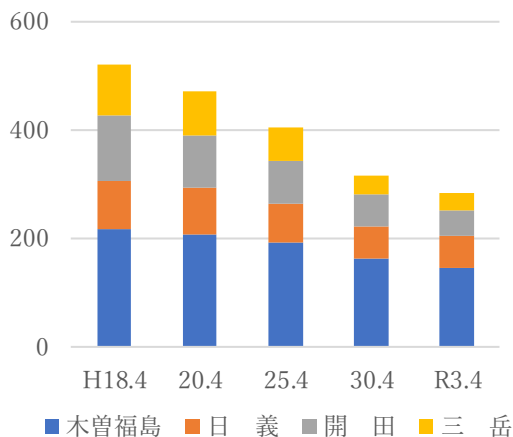
消防団の火災想定訓練（一昨年・開田高原）

毎年減り続ける消防団員 ～合併時から約200人減少～

私も開田村時代は消防団に入っていたが、当時（昭和50年頃）は若い人が大勢いて、私が入団できたのは23歳になってからだった。25年余り務めたが、長野県西部地震や人家火災での出動、行方不明者の捜索、ポンプ操法大会への出場など今でも当時のことが懐かしく思い起こされる。

平成17年には町村合併で木曽町消防団が誕生し、その後も組織の改編などを経て現在に至っているが、町の人口減少とともに団員数も毎年減り続けている。この15年余りで200人余りも減り、減少率は約40%。地区別では福島地区▲32%、日義▲36%、開田高原▲61%、三岳▲67%といった具合だ。

木曽町消防団員数の推移



団員減少によって生じる影響は

～個々の負担や責任の度合いが年々増加～

団員の減少は我が町だけではなく全国的な傾向だが、団員が減るとどんな影響が生じるのだろうか。

一番の問題は、緊急時に団員を確保できず出動できなくなる恐れがあるということ。

また、合併によって木曽町は県内町村で最大の面積（476平方キロメートル）を有することになったため、団員の受け持つエリアが広くなり、結果として団員個々の負担や責任の度合いが年々増してきていると言える。

～有事に備え訓練を実施～

魅力づくりや処遇改善なども課題



森本剛士消防団長

「有事に際して団員が怪我をするようなことがあってはならない。今回は、感染対策をしっかりとって訓練を実施した」



訓練を終え整列した消防団員ら（9月・三岳）

感染対策をとって火災想定訓練 ～女性消防隊や後方支援隊も活躍～

町の人口が減り若者も少ない中で団員の減少を抑えることは難しいことだが、町もただ手をこまねているだけでなく、ホームページやポスター、女性隊通信の発行などによって周知を図るなど努力を重ねている。その結果、女性消防隊員は今年役場職員を中心に10人が入団するなど、少しずつではあるがその成果も現れ始めている。

9月1日には防災の日に合わせて消防団による火災想定訓練が、感染対策をとって町内2か所で行われた。このうち三岳会場では団員80人余りが参加。女性消防隊も参加し本部運営訓練を行ったほか、三岳地区の消防OBらで作る後方支援隊も参加し交通整理などで活躍した。

団員対象の商品券発行を ～消防団の魅力づくりと地域経済支援～

魅力づくりの一環として他地域では、消防団員限定で居酒屋での割引サービスといったユニークな取り組みなども行われている。昨年来、コロナ感染症対策により宿泊、飲食業など地元商工業者も厳しい中で、経済対策と消防団の魅力づくりの観点から団員一人当たり一律5千円程度の商品券の発行はできないだろうか。6月議会で提案しているが、日頃は仕事と消防団活動で忙しいお父さんなどがこれを使って少しでも家族サービスができるように、ぜひ前向きに検討していただきたい。

処遇改善に向けて ～報酬等の増額を図るべき～

消防団員の減少は全国的な傾向だが、消防庁も「このまま減り続けると地域防災に支障が出かねない」との危機感を強めていて、昨年から「消防団員の処遇等に関する検討会」を開いて改善策を探っている。

同庁の処遇改善の通知では、消火活動や災害救助に従事した消防団員に支払う出動手当については1日8000円、また一般団員の年額報酬の標準は3万6500円としており、いずれも実質的な引き上げになっている。

実際の報酬額は市町村が条例で定めることになるが、ぜひ処遇改善の一環として報酬及び出動手当等の増額を図るべきだと考える。



女性消防隊（9月・三岳）

団員報酬、郡平均を下回らないように

～災害出動費の改善も～

郡平均を下回っている役職と報酬額(円)

役 職	郡 平 均	木 曽 町
本部長	91,500	84,000
分団長・隊長	62,000	57,000
部 長	26,000	25,000
班 長	20,000	19,000
副班長	14,000	13,000
団 員	12,600	12,000

(資料) 町危機管理室。本年 6 月現在。

団員報酬等について、町は消防庁の通知を受け「改善に向けて検討したい」という意向だ。そこで先ず郡内の状況について調べてみた。各消防団の状況が異なるため、役職だけをもって単純に金額を比較することは適当ではないかもしれないが、基本的には各役職とも郡平均を下回ることのないようにすべきだと思う。

資料によると表の通り郡内の平均よりも低い報酬の役職がある。これはぜひ早急に改善してほしいと思う。

また出動手当について、木曽町は火災、災害出動が 3 千円、訓練などの出動手当も同額になっている。訓練については現状と同額であっても、危険を伴う災害出動についてはぜひ増額していただきたいと思う。

運転免許の区分変更に伴う支障は

～3.5 トンの消防車を運転できない～

普通免許で運転できる車の総重量は、2007（平成 19）年 6 月 2 日以降の取得者は 8 トン未満から 5 トン未満に、17 年（平成 29）3 月 12 日以降の取得者は 3.5 トン未満になった。一定以上の大きさの車の運転手に高い技能を求めることで事故を減らすことが目的だ。

消防団でこれまで使われてきた消防ポンプ車の主流は 4～7 トン程度で、これを運転するには準中型免許が必要だが、消防団員の多くは普通免許しか持っていない。そのため、他地域では若い団員に消防車を運転できない人が増えているということも聞いている。

我が町の 3.5 トンを超える消防車両は、ポンプ車とタンク車の全てと 4 台の可搬積載車があり、全体では 17 台が該当する。

今後、消防車を運転できないというような支障が生じないように今から対策を検討する必要がある。



準中型免許を取得する団員に補助を

～経費の半分以上を国が交付税措置～

そこで現行車両を運転できるようにするために、免許取得に対して補助制度を設けるべきではないかと考える。総務省消防庁によると国は 2018 年度から消防団員が準中型免許を取得するために自治体が負担した費用の半分以上を、特別交付税で補助している。ぜひこれらの制度を積極的に活用して実施していただきたいと思う。

普通免許で運転できる消防ポンプ車の導入を ～小型でも性能変わらず～

3.5 トンを超える消防ポンプ車は普通免許では運転できなくなるが、解決方法としては前述の準中型免許を取得するという方法と、もう一つは普通免許で運転できる車両を導入するということだ。

2017 年の免許区分変更の翌年に消防車メーカーのモリタ（兵庫県三田市）が 3.5 トン未満の消防ポンプ車の発売を始めた。これは普通免許で運転できる国内唯一の消防ポンプ車で、小型になる分装備は「必要最低限」になるものの 1 分当たりの放水量などポンプ性能は従来の車両と変わらないという。

ぜひ今後、普通免許で運転できる消防ポンプ車の導入についても検討すべきではないかと思う。

今後の対応として新たな免許を団員に取得してもらうか、軽量で装備を絞った消防車に買い替えるか、町も悩みどころだと思うが、二者択一ではなく普通免許で運転できる車両の導入と準中型免許の取得の双方を進めていっていただくことが好ましいのではないかと考える。

いずれにしても緊急時に消防車を運転できない、消防車が出動できないということのないようにしっかり取り組んでいただきたい。



消防団の火災想定訓練（5 月・福島）

はりきりご長寿列伝

くぬぎはら たいへい 榊原 大平 さん (87歳・木祖村) ⑩

このコーナーでは高齢にもかかわらず今なお元気に仕事をしている人、自分の趣味に専念している人など元気あふれるお年寄りを紹介しています。今回は木祖村榊原の榊原大平さんです。なお、この様子は9月28日、NHK テレビのイブニング信州で放映されました。



夫婦で同じ趣味を楽しむ ～ハーモニカに感謝～

木祖村榊原宿にあるコミュニティ施設「笑ん館」(わらんかん) からハーモニカの音色が聞こえてきた。毎週水曜日の午後は、木祖村のハーモニカ同好会「吹いちゃおーズ」のメンバーの練習日だ。会員は現在、13人。このうち男性が3人で後は女性だ。当初は男性がほとんどだったが、最近は女性会員が増えたという。

会員の榊原さんは7歳のころ兄からハーモニカを買ってもらい、30代で本格的に始めてすでに50年。奥さんのみすみさん(82歳)も5年ほど前に入会し、今では二人そろって練習に励んでいる。

「今まで病院や介護施設などを慰問したり、芸能祭などで発表したりしてきたが昨年からコロナの影響でそれができなくなった」と残念がる榊原さん。それでも昨年は、事前にビデオ撮りをして正月にケーブルテレビで放映してくれたという。今年も昨年と同様に放映の予定で、会員らは11月のビデオ撮りに向けて毎週真剣な表情で練習に励んでいる。



自宅でハーモニカを吹く榊原さん夫妻

「山や川など自然を歌った曲が好きです」と話す榊原さん。収録に向けて練習しているお気に入りの曲は『高原の駅よさようなら』。合同練習だけでなく、自宅でも夕食の後に奥さんと一緒に吹いているが、夢中になると時間の経つのも忘れるほど。二人の息はぴったりで素晴らしい音色を奏でている。

ハーモニカが上手くなるコツについて榊原さんは「吹かなければダメ、慣れなければダメ」と実践することを強調する。ハーモニカのほかにマレットゴルフや囲碁なども楽しんでいる榊原さん。「友達と一緒に物事をやると長生きする」と話す。「夫婦で同じ趣味を楽しみ仲間にも会える。本当に感謝しかない」と笑顔が広がった。

私の本棚

『京都祇園 もも吉庵のあまから帖2』

(志賀内泰弘 著・PHP 文芸文庫)



京都・祇園。一見さんお断りの甘味処「もも吉庵」を営む元芸子・もも吉の、人生の機微に通じた言葉が、悩みを抱えた人々の心を癒す。「辛抱せんと花は咲かへん。いや、すぐにパーッと咲く花もある。そやけどなあ、辛抱して咲かせた花ほど綺麗な花はないんや。今は蕾なんや。辛抱しなはれ」花街の甘味処に集う人々の哀歓を祇園の四季に重ね、古都の風物詩とともに描いた感涙必至の人情物語です。

編集後記

有り難いことに会報の読者からメールや手紙などが届きます。これらは貴重な意見として今後の議員活動に生かしていきたいと考えています。この会報は新聞折込みを通じて町内と王滝村全域、及び郡内外の地域づくり仲間などにも郵送しています。ただ、新聞折込みのため町内全戸に行き渡らないのがネックです。ぜひ読んでみたい、という方は連絡いただければ郵送等でお届けしますので気軽にお知らせください。

これからも魅力あふれる木曽町の創造に向けて、皆さんの忌憚のないご意見をお待ちしています。



編集・発行者： 大目 富美雄 (おおめ ふみお)

〒397-0301 長野県木曽郡木曽町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661

携帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com